

(電子メール施行)  
農 技 第 1078 号  
平成 30 年 5 月 10 日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を以下のとおり発表します。県南部地域の施設トマト生産ほ場において「トマト黄化病」を本県で初確認しました。つきましては以下の防除対策に努めるようお願いします。

〔\* 特殊報とは、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表する情報です。〕

## 平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名 トマト黄化病
- 2 病原ウイルス トマト退緑ウイルス ( *Tomato chlorosis virus*, ToCV)
- 3 対象作物 トマト

### 4 発生経過

平成 29 年 10 月に県南部の施設栽培のトマトにおいて中位、下位葉の葉脈間の黄化や褐変症状が見られ、病徴からトマト黄化病が疑われた。そのため、神戸植物防疫所に診断を依頼した結果、病徴、RT-PCR、塩基配列解析、指標植物の汁液接種の結果から *Tomato chlorosis virus* (ToCV) と同定され、トマト黄化病と確認された。

トマト黄化病は本県では初確認であるが、国内では平成 20 年に初発生が確認され、平成 30 年 5 月現在では 17 都県で発生が確認されている。

### 5 本病の特徴

#### (1) 病徴

- ①発病初期には、葉の一部の葉脈間が退緑黄化し、黄斑を生じる。
- ②症状が進むと葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、葉巻症状やえそ症状が現れる。
- ③下位葉で症状が激しくなる傾向があり、症状は生理障害（下位葉の苦土欠乏症）に似る(写真 1,2)。
- ④発病株は生育が抑制され、収量が減少する。

#### (2) 伝染方法

- ①本ウイルスはクリニウイルス属のウイルスで、タバココナジラミ及びオンシツコ

ナジラミによって媒介される。

- ②コナジラミ類による伝染は、半永続伝搬であり、ウイルス媒介能力は数時間から数日間維持される。
- ③経卵伝染、汁液伝染、土壌伝染及び種子伝染はしない。

## 6 防除対策

本ウイルスは、トマト黄化葉巻ウイルスと同様にコナジラミ類により媒介されるため、トマト黄化葉巻病と同様の防除対策が必要である。

- (1) 発病株はウイルスを保毒し、伝染源となるため、直ちに抜き取り、媒介虫とともにビニール袋等に入れて完全に枯死するまで密封する。
- (2) コナジラミ類の施設内への侵入を防ぐため、育苗ハウス、本圃ともに施設開口部（天窗、側窓、換気扇口など）に0.4mm目以下の防虫ネットを展帳する。
- (3) 苗による持ち込みに注意し、葉色や生育の悪い苗は使用しない。
- (4) 育苗～生育初期のコナジラミ類の防除に努め、定植前に必ずコナジラミ類に登録のある粒剤による処理を行い、初期の感染防止を徹底する。
- (5) 黄色粘着トラップを施設内に設置しコナジラミ類の早期発見に努める。
- (6) 施設内および周辺の雑草は、コナジラミ類の増殖場所となり、ウイルスの伝染源になる可能性があるため雑草対策を徹底する。
- (7) 栽培終了後は、全株を地際から切断または抜根し、施設を10日以上密閉しコナジラミ類を死滅させる。



写真1 発病した下位葉の症状



写真2 下位葉に発病した株の全体写真

## 7 問い合わせ先

兵庫県病害虫防除所（加西市別府町南ノ岡甲 1533）

電話番号：0790-47-1222